

Ⅰ
問 1

1 プラトンによると、人間の魂と国家は類比的な関係にあり、いずれも知恵・勇気・節制という三つの徳を備えなければならない。そしてこれら三つの徳が調和したとき、魂においても国家においても正義が成立するといふ。ルソーはプラトンと大いに異なる政治的信念を持っているが、権威による強制によって真の自由が成立するといふ発想は、大衆は真理を知る哲学者によって導かれなければならないというプラトンの思想と通低している。

(200字)

問 2

2 多くの人々は、人間が多かれ少なかれ必然性に縛られた存在だと考えている。だが実存主義の哲学者サルトルはこれを正面から否定し、人間は牢獄の中でも自由だと主張する。彼によると本質が実存に先立つ物質と違い、人間は実存が本質に先立っているため、自らの本質を自ら選び取るべく運命づけられているのである。またこうした人間の自由な行為は他者にも影響を与えざるを得ないので、人間はつねに全人類に対して責任を負っている。

(200字)

II

まず、これまでたびたび軍事力を行使してきた日本は、第二次世界大戦後に平和憲法を制定して、外交の手段として軍事力を行使しない方針を採用した。また中国は1970年代末から鄧小平の下で改革開放政策を採用し、それまでの資本主義諸国との対決姿勢を大きく転換した。そして、ソ連は、1980年代後半のゴルバチョフ政権の下でペレストロイカと呼ばれる改革を推進し、外交政策を「対立から協調へ」と大きく転換した。さらに、韓国は、1990年代末の金大中の下で、北朝鮮に対する従来の政策を変更し、対話重視の政策を採用した。このように、近年の東アジア諸国の外交政策は、軍事力重視から対話重視へと大きく転換した。それらに加えて、1990年代には、ASEAN+3などのように、小国も含めた対話の場が設定されるようになった。こうして、東アジア国際秩序は、力の政治による「覇権的」かつ「垂直的」な秩序から、より民主化された多元的な構造に変化した。

(400字)

Ⅲ

問 1

1 政府開発援助

(6 字)

問 2

2 経済協力開発機構

(8 字)

問 3

3 開発援助委員会

(7 字)

問 4

4 株式取得による純流入額は増加傾向が続き債務性資金の純流入額は 90 年代後半に減少したが、ともに 03 年以降急増した。ODA 純供与額は 97 年から増加傾向にある。

(75 字)

問 5

5 債務性民間資金、株式取得による民間資金とも純流入額が 03 年以降に急増し、その合計の対 GDP 比率も高まっているが、後者の対 GDP 比率の伸び率は大きくない。

(75 字)

問 6

6 途上国への ODA によって経済成長に必要な社会資本の整備が進んだ上、対外開放政策の実施により、先進国の企業が生産拠点を途上国に移転する直接投資をしやすい環境がうまれた。また、それにともなう経済成長によって、先進国からの銀行借入なども増加した。さらに IT の進歩は、直接投資に必要な各国の資源や賃金に関する情報や、金利や為替レートなど金融取引に関する情報を瞬時に、かつ低コストで入手できるようになったため、先進国からの資金移動を活発化させた。

(218 字)